第３学年　体育科学習指導案

指導者

１　単元名　ハンドベースボール（ベースボール型ゲーム）

２　目　標

○　規則を守り，互いに協力しながら，楽しく進んで練習やゲームをしようとする。（関心・意欲・態度）①

○　自分やチームの課題をもち，工夫して練習に取り組むとともに，自分たちのチームの課題を生かした作戦を立てることができる。（思考・判断）②

○　投げる，捕る，打つ，進塁するなどの簡単な技能を身に付けることができる。またその技能を生かして，ゲームをすることができる。（技能）③

＜キャリア教育の視点＞

１－①　友達のよいところを見付け，相手を尊重する。

３－①　家族・学級の一員として集団のためにできることを考え自分の役割を果たす。

４－①　主体的に判断し，自分のやりたいことや，よいと思うことに進んで取り組む。

３　指導に当たって（男子56名　女子49名　計105名）　（調査実施日：10月20日）

関心・意欲・態度	①　習熟度別学習になり１学期と比べて体育はどうですか？　楽しい 98(97) 名　あまり楽しくない 7（8）名 **＜楽しい理由＞** ・上手になる方法を先生が教えてくれるから　・前よりもできるようになったと思うことが増えたから ・コースが上がっていくと嬉しいから **＜あまり楽しくない理由＞** ・好きな友達やクラスの友達と一緒に練習ができないから　・あまり記録が上がらないから
	②　野球は好きですか？　好き 35名　あまり好きではない 70名 **＜好きな理由＞** ・ボールを投げたり打ったりして楽しいから　・お家でキャッチボールをして楽しいから **＜あまり好きではない理由＞** ・ルールややり方が分からないから　・ボールが当たると痛そうだから　・上手にできないから
	③　もし，自分で練習メニューを考えることになったらどのように思いますか？ やってみたい48名　不安だけどやってみたい46名　あまりやってみたくない11名
	④　自分のよさが見付けられる児童 73名　⑤　友達のよさが見付けられる児童 86名
思考・判断	①　授業中，自分のめあてをもって学習していますか？　している80(49) 名　だいたいしている23 (49) 名　あまりしていない 2 (7) 名
	②　自分のめあてをもったら，工夫して学習していますか？　工夫している 70(48) 名　あまり工夫していない35 (57) 名
技能	**【教師による評価】** ①　**投げ方**　できる16名　だいたいできる67名　あまりできない22名 ②　**打ち方**　できる14名　だいたいできる74名　あまりできない17名 ③　**捕り方**　できる21名　だいたいできる63名　あまりできない21名 ④　**野球をしたことがありますか。**　よくある 20名　何回かある32名　したことがない53名 ⑤　**ポジションが分かりますか。**　分かる22名　分からない83名 ⑥　**ルールが分かりますか。**　分かる16名　だいたい分かる35名　分からない54名

※（ ）の数値は６月時の実態調査

本単元は，ボールを投げたり，打ったり，捕ったりしながら簡単な技能を身に付けて，２チームが攻めと守りに分かれ，得点を競い合うことを楽しむ運動である。また，集団対集団で競い合うゲームを通して，仲間と協力してゲームを楽しむことや楽しいゲームをつくり上げることができる運動である。しかし，初めてのベースボール型ゲームであり，普段の生活の中でも類似した遊びをした経験が少ない児童にとっては，簡単な技能が身に付いていなくて，ルールが分からないため，楽しくゲームに参加することが難しい学習である。

児童の実態調査によると，野球が好きな児童は35名で，あまり好きではない児童は70名である。あまり好きではない理由として，ルールややり方が分からないこと，ボールが当たると痛いこと，上手にできないことなど，技能による理由が挙げられた。また教師による技能面の評価でも投げ方や打ち方や捕り方の簡単な技能を身に付けた児童は少ない。そこで本単元でも，１学期と同様に習熟度別学習を取り入れ学習を進めていきたい。個に応じた支援を行い，技能が向上できるようにして，ベースボール型ゲームに対する不安を軽減し，楽しくゲームに参加することができるようにしたい。すでに簡単な技能が身に付いている児童に対しては，瞬時に判断し，次の動作を予測しながら，正確に投げたり，捕ったり，打ったりしたりすることができるようにしたい。

中学年は，自分やチームに合った運動の課題をもち，その課題を解決するための活動を考えたり工夫したりすることが大切である。実態調査からも分かるように，児童は４月から学習カードの工夫を行い，思考・判断の能力が少しずつ身に付いてきた。その学習カードの工夫とは，まず，学習カードにはあらかじめ課題をいくつか記載して児童が自分に合った課題を選択することができるようにする。そして，学習が進むにつれ，児童が自分で課題を設定することができるようにして，自分に合った課題のもち方や，そのためにどのように工夫したらよいかなどを学ぶことができるようにする。

本時では，「MTM（マッチ・トレーニング・マッチ）」という指導法を導入し，児童の技能と思考・判断の能力をさらに高めていきたい。MTMとは，まず始めに試合を行いそこから浮かび上がった課題を修正するために練習を行い再び試合を行う練習方法である。従来の「練習→試合」という流れではなく，練習のときからゲームの要素を重視して判断力を養う。

第３学年では，体育の学習を通して，キャリア教育の視点である意思決定能力の中の選択能力を高める工夫に取り組んできた。さらにこの能力を高めるためには，自分のよさに気付くことが大切である。自分のよさに気付き，自分への信頼を深めていくことができれば，自分で自分の道を切り拓いていけるからである。本単元では，思いやりカードを活用して，友達のよさを思いやりカードに記入して交換する場を設定し，自分のよさに気付くことができるようにしていきたい。

4　単元の評価規準

	関心・意欲・態度①	思考・判断②	運動の技能③
学習活動における具体的な評価規準	㋐教え合ったり，励まし合ったりしながら◎進んで練習をする。 ㋑◎規則を守り，楽しく進んでゲームに取り組み，審判の判定や勝敗を素直に認めようとする。	㋐自分の課題をもち，◎工夫して練習に取り組むことができる。 ㋑◎自分やチームの課題をもち作戦を立ててゲームをしたり練習をしたりすることができる。	㋐投げ方，打ち方，捕り方，進塁の仕方などの◎簡単な技能を身に付けることができる。 ㋑◎ボールを投げたり，打ったり，向かってくるボールの正面に移動して捕ったり，ベースに向かって走り，かけぬけたりする技能を生かして，ゲームをすることができる。

◎は十分満足できる状況

5　指導と評価計画（10時間扱い）

	学習のねらいと活動	評価計画 関	評価計画 思	評価計画 技
はじめ 1時間	○学習のねらいや進め方について知ろう。 ○自分の力を知り，学習のめあてを立てよう。 1　学習のねらいと道筋を知り，見通しをもつ。 2　学習の進め方を知る。 ・ルールの確認　・コース分け　・マナーの確認 3　試しの運動をする。 ・投げ方　・打ち方　・捕り方 4　用具の後片付けをする。 5　反省をし，次時の確認をする。	㋐		
なか1 3時間	ねらい１ ○投げ方，打ち方，捕り方，進塁するなどの基本的な運動の練習をし，簡単な技能を身に付けよう。 1　投げ方の練習をする。 2　打ち方の練習をする。 3　捕り方の練習をする。 4　進塁する練習をする。 5　各コースの練習を見学する。 6　用具の後片付けをする。 7　反省をし，次時の確認をする。			㋐
なか2 2時間	ねらい２ ○ゲームのやり方やルールを決めて，ゲームを楽しもう。 1　個人，チームのめあてを立てる。 2　チーム練習をする。 3　ゲームをする。 4　用具の後片付けをする。 5　反省をし，次時の確認をする。	㋐	㋐	
なか3 （2本時時間2/2）	ねらい３ ○チームで立てた作戦でゲームを行い，自分やチームの課題をもち，工夫して練習しよう。 1　ゲームをする。 2　チームの課題から練習の仕方を考える。 3　チーム練習をする。 4　用具の後片付けをする。 5　反省をし，次時の確認をする。		㋑	㋑
まとめ 2時間	○ハンドベース大会を開こう。 1　個人，チームのめあてを立てる。 2　チームの作戦を立てる。 3　ハンドベース大会を開く。 4　用具の後片付けをする。 5　単元を振り返り，まとめをする。	㋑		

6　本時の学習

(1)　本時のねらい

○　チームで立てた作戦でゲームを行い，自分やチームの課題をもち，工夫して練習する。
（思考・判断）

○　ボールを投げたり，打ったり，向かってくるボールの正面に移動して捕ったりベースに向かって走り，かけぬけたりする技能を生かしてゲームをすることができる。
（技能）

＜キャリア教育の視点＞

１－①　自分のよいところや友達のよいところを見付ける。

４－①　主体的に判断し，自分のやりたいことや，よいと思うことに進んで取り組む。

(2)　学校教育指導方針の努力事項との関連

「学習内容の明確化を図り，発達段階や系統性を踏まえた体育指導の展開」という努力事項に対して，以下の取組を行う。

・　学習カードを工夫して，児童の学習課題を明確にし，主体的に活動できるようにする。

・　習熟度別学習を行い，どの児童にもできた，分かった，上手に（人やものに）かかわることができたという実感がもてるようにする。

・　運動時間を確保するため，授業前後に自分のめあての確認・自己評価の記入を行う。また，準備運動や，最初からコースごとに分かれての学習を行う。

(3)　本校の学校教育目標との関連

「自ら学び自ら考える」という学習面での学校教育目標に対して，以下のような学習指導の具体的な工夫を行う。

・　学習カードを活用し，児童が明確なめあてをもち意欲的に工夫しながら習に取り組めるようにする。

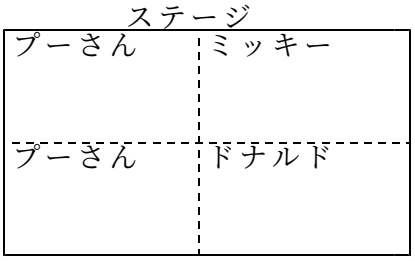
・　MTMという指導法を導入し，児童がゲームから課題をもち主体的に練習の仕方を考え，練習することができるようにする。

(4)　準備・資料

・ボール　・ホワイトボード　・ケンステップ　・ペン　・学習カード　・Ｔスタンド

・学習の流れの掲示物　・チームの掲示物　・手作りユニフォーム（Ｔシャツ）

(5)　展　開（８／10）

	学習内容・活動	指導上の留意点	評価の観点・方法
	１　自分のめあてを確認する。 ２　コースごとに分かれて準備運動をする。	・　児童の健康状態，見学者，欠　席者の確認をする。 ・　自分のめあてを確認させ，本　時の課題に意欲的に取り組むこ　とができるようにする。	
はじめ15分	（本時） ３　課題を確認する。 **○　チームで立てた作戦でゲームを行い，自分やチームの課題をもち，工夫して練習しよう。**		
	４　前時に立てた作戦をもとにゲームをする。 ・　ミッキーコースとプーさんコースは，味方ピッチャーでゲームをする。ドナルドコースは，Ｔスタンドを使ってゲームをする。 ・　待機しているチームは同じチームの友達のゲームの様子を見て，よさやアドバイスを「思いやりカード」に書く。 ・　チームで考えたかけ声をかけ，友達を応援する。  	・　Ｔ１（ドナルドコース），Ｔ２・Ｔ４・ＧＢ（プーさんコース），Ｔ３・ＡＴ（ミッキーコース）がそれぞれのコースの児童の健康状態を確認する。 ◎　介助員１は配慮を要する児童の支援にあたる。児童は,苦手な課題に対して固まることがあるので一緒に活動し安心感を与えるようにする。 ◎　介助員２は，配慮を要する２名の児童の支援にあたる。児童は，与えられた課題が難しいと感じたときに集団で活動することができなくなるので介助員が，一緒に活動したり助言したりしながら安心感を与えるようにする。また，児童は教師の指示を理解することが難しいので，介助員が児童の側で再度指示の確認をするようにして円滑に活動することができるようにする。 ・　同じチーム内で「思いやりカード」を渡すことにより，友達のよさや自分のよさに気付くことができるようにする。自分のよさに気付き自信をもつことで，本時の課題に意欲的に取り組むことができるようにする。	☆　ボールを投げたり，打ったり向かってくるボールの正面に移動して捕ったりベースに向かって走り，かけぬけたりする技能を生かして，ゲームをすることができたか。 （学習時の観察③－㋑）

<table>
<tr><td></td><td></td><td>◎　思いやりカードに記入することが難しい児童には，例えば，学習カードにイメージを振り返るようにして，友達の投げ方や打ち方や捕り方のよいところを見付け，意識して頑張っている点に注目するようにしてあてはめるようにすることが見付けられるようにする。
・　児童が安全にゲームをすることができるようにするために，教師は児童の守備場所を確認する。また，教師は，児童同士で声をかけ合い，安全を意識してゲームするように助言する。</td><td>☆　自分のよいところや友達のよいところを見付けることができたか。　１－①（思いやりカード）</td></tr>
<tr><td>中
25分</td><td>5　ゲームから自分やチームの課題をもち，練習の仕方を話し合う。
・　学習カードに書く。
・　掲示している学習カードに書く。

6　チームで練習する。
ステージ
<table><tr><td>プーさん</td><td>ミッキー</td></tr><tr><td>プーさん</td><td>プーさん</td></tr></table></td><td><table><tr><td>T2・T4・GB
（プーさん）</td><td>T3・AT
（ミッキー）</td><td>T1・介助員1，2
（ドナルド）</td></tr><tr><td>・　主にチームの課題をもち，練習を工夫することができるようにするための支援をする。

◎　練習の仕方に工夫が見られないときはこれまでの練習の仕方を振り返り，それを生かして道具を活用したり人数の構成を増減するなど考慮しながら練習の仕方を考えるように助言する。</td><td>・　主にチームの課題をもち，いくつかの練習を組み合わせて工夫することができるようにするための支援をする。

◎　練習の仕方に工夫が見られないときは「どこへどう動くのが一番いいのか」を１球ごとに考えながら攻撃と守備のチーム練習を考えるように助言する。</td><td>・　主に教師の助言を受けながら，チームの課題をもち，練習を工夫することができるようにするための支援をする。
◎　練習の仕方に工夫が見られないときはこれまでの練習の仕方を振り返るとともに，教師とともに練習の仕方を考える。</td></tr></table>
・　チームや自分の課題と，練習の仕方が一致しているかを確認する。
・　ケンケンステップを活用し，児童が練習するときの位置が視覚で明確になるようにして，主体的に練習に取り組むことができるようにする。
・　練習の運動量が少ない児童には既習の練習を組み合わせることや人数の構成を増減するなど助言する。
◎　一人一人の上達したところを具体的に賞賛するようにして，意欲的に学習に取り組むことができるようにする。
◎　それぞれのコースで，ボールの投げ方や打ち方や捕り方が難しい児童には，個別に具体的な方法を伝え，自信をもって学習課題に取り組むことができるようにする。
・　工夫して活動しているチームを紹介し，児童が具体的な工夫について理解でき，自分でも工夫しながら活動することができるようにする。</td><td>☆　チームで立てた作戦でゲームを行い，自分やチームの課題をもち工夫して練習しているか。
４－①（学習時の観察②－㋑）</td></tr>
<tr><td>まとめ
5分</td><td>7　後片付けをする。

8　整理体操をする。

9　本時の学習を振り返る。</td><td>・　教師も児童とともに整理体操をしながら，児童の表情や動作を観察する。
・　教師が，児童の頑張っていた点や工夫していた点を賞賛し，児童が次時の学習に意欲がもてるようにする。</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>10　学習カードに自己評価と次時のめあてと作戦を記入する。</td><td>・　児童が本時を振り返り次時のめあてが明確になるようにして，次時の学習に意欲的に取り組むことができるようにする。</td><td></td></tr>
</table>

◎個への対応　☆評価の観点